

ICT機器導入施設

富士聖ヨハネ学園

【施設概要】

運営法人：社会福祉法人 聖ヨハネ会

住所：山梨県南都留郡忍野村忍草2748

対象：知的障害者

定員：施設入所支援 122名

生活介護 154名

短期入所 8名



1 導入機器

分類	製品名	台数	導入の理由
見守り支援機器	眠りSCAN	40台	高齢利用者の見守りの目的（行動、生体状態の感知）に合致しており、モバイル端末にも対応している。
	A.I.view.Life	20台	居室空間における様子を確認することができると共に、通知機能もあるため、支援員の負担軽減、事故防止、利用者支援の向上に資する。
情報共有、業務支援のための通信機器等	iPhoneSE	10台	見守りセンサーの確認及び通知の受信が可能であり、携帯することができるため、体制が手薄になる夜勤時の活用を想定して導入
	iPad	10台	見守りセンサーの確認及び通知の受信が可能であり、利用者の状況確認が大画面でできるため、職員間の情報共有を目的に導入
通信環境整備	CISCO Systems AIR-AP2802I-Q-K9C	45台	見守りセンサー機器の情報を各端末に送信するためのWi-Fi環境を整備することを目的に導入

2 実施体制

- プロジェクトチームを設置
- リーダー：施設長
- メンバー：支援課長、看護師、事務管理室、導入するユニットから支援員1～2名
- アドバイザー：理学療法士

3 課題整理

- 利用者の高齢化と行動障害のある利用者への支援（介護）業務量が増加
- 利用者の状態と把握や転倒リスクの対応を行うために、夜間の定期巡回が増加
- ターミナル期の業務が増加にともなうの精神的負担
- 他害行為の頻度の増加や把握できない外出等への対応

4 導入効果

- 取得した心拍・呼吸数・睡眠状態のデータを蓄積による、個別特性に合わせた支援が可能に
- 記録の特異値等から通知設定を変更する等、データ活用も開始した
- 記録から利用者の行動、行為を確認し、発作の確認やろう便の防止等も実現した

5 課題と解決策

- ICT機器の活用が進んだことで、職員の活用度、熟練度に差が生じているため、情報共有を進めて底上げを狙う。
- 個別判断は精神的なストレスにも通じるため、ICT活用マニュアルを改定し、不具合時の対応を明確にすることで、「勤務者の動揺、迷い」時間をなくす